©河北新報社 2009

NIE特集
Newspaper In Education

ときとき小学生

瀬峰小

学校名　栗原市立瀬峰小学校　　校長　菅原信
所在地　栗原市瀬峰清水山15の1　　児童　280人
電話　0228（38）2012

うきうきキャンバス

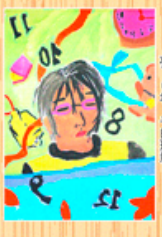
もぐらのまち
1年・後藤優菜

運動会
2年・野村莉緒

トノサマバッタ
3年・青沼朋輝

ありがとうランドセル
4年・千田実貴

虹色世界（カラフルワールド）
5年・千葉唯人


夢
6年・千田玲那

不用物を集め手作り

リサイクルみこしのルーツは？

環境問題 地域ぐるみ

知り隊

ペットボトルなどで作った伊達政宗のみこしが、地区民運動会にも出陣

わたしたちのふるさと、栗原市瀬峰では、毎年8月に夏祭りが開かれます。一番の見どころは、リサイクルみこしパレード」で、瀬峰小の子どもたちが地区ごとに、空き缶などを使ってみこしを作り、かつぎます。ユニークなリサイクルみこしはなぜ始まったのか、市教委・瀬峰教育センター長の菅原正剛さんにお話を聞きました。

リサイクルみこしパレード」を盛り上げてもらおうと1999年に始めました。子ども会育成会が子どもたちに夏祭り

もっと、みんなで一つのものを作る、体験を通して地域の人たちと環境問題について考えよう」と始まったんだよ」と菅原さんは説明してくれました。

育成会で準備したものは、土台の板や、太さ10㌢、長さ3㍍ぐらいの太くて重いかつぎ棒のみでした。それ以外はペットボトルや空き缶、古新聞、段ボールなど、みんなで集めたリサイクルごみで作りました。パレードのコースは、瀬峰支所から JR東北線・瀬峰駅前を通って瀬峰公民館まで約1㌔です。

昨年は岩手・宮城内陸地震の影響で夏祭りが中止になり、今年が20回目。参加者は大人と子どもを合わせて約300人で、伊達政宗をかたどったみこしや宝船のみこしが登場しました。

菅原さんは「リサイクルみこしは、これからも子どもたちが中心となって作ってほしい。地区のみんなが参加し、楽しく活気のあるお祭りにしたい」と話してくれました。

リサイクルみこしパレードは、夏祭りの後、9月6日の地区民運動会の中でも行われました。

◇　◇

リサイクルみこしには、心を込めてみこしを作る私たち子どもや、それを支えてくれている地域の方々など、たくさんの人の願いや思いが込められていることが分かりました。限りある資源を大切にしていきたいと思います。中学生になっても、何かの形でリサイクルみこしパレードに参加できたらと思いました。

文・二上大雅、高橋実来、二上リサ（6年）

菅原センター長に取材

教え隊　ぼくたちの学校

廊下の長さ 直線130メートル

3年前に立て替えられた校舎

わたしたちの通っている瀬峰小は、2006年に建て替えられました。校舎は1階建てで、東西に廊下がまっすぐに伸びています。その長さは、直線で約130㍍にもあります。

この校舎には自慢できるところがたくさんあります。例えば校舎の中心にふれあいホールがあり、休み時間に、学年に関係なくみんなで楽しく遊ぶことができます。時には4年生以上の「若葉スクールバンド」のコンサート会場にもなります。

こんな自慢の学校をいつまでも大切にしていきたいです。

文・千葉浩、小野寺希、高橋亜美（6年）

編集後記

先生から「新聞を作るよ」と言われた時は、すごくびっくりしました。それからどんな記事にしようか考えました。

みんなで話し合ってみると、さんの話題があることが分かりました。自然の豊かさや人の優しさなども再発見した（編集委員）二上大雅、高橋実来、二上リサ、千葉浩、小野寺希、高橋亜美、高橋伸弥、宮内菜摘（6年）

この「ときとき小学生」を読み、瀬峰には環境を守ろうとする活動や、自慢できるところがたくさんの人に知ってもらえたらいいなと思いました。

（指導教諭）鈴木圭、高橋美絵（6年）

言い隊

■ きちんとごみ捨てを ■

最近、瀬峰では、たばこや空き缶、ガラスの破片などがよく落ちているのを見ます。みなさんはごみを捨てるとどうなるか考えたことがありますか。次の話はぼくが実際に体験した話です。

去年、自転車で走っている時、道路の脇に落ちていた空き缶をかごで転んだことがあります。この時、もし道路側に転んでいたら考えると怖くなります。たった一つのごみが原因で人や動物の命が奪われることがあるかもしれません。そんなことが起きないように、ごみはちゃんとごみ箱に捨て、捨てようとしている人がいたら、みんなで注意していけるような当たり前のことができる地域にしていきたいです。

（6年・高橋伸弥）

■ 守りたいホタルの里 ■

「ホタルの里」は、わたしの住む野沢地区にある名所です。でもこのホタルの数が減ってきています。その原因は、農薬が川に流れこんでしまい幼虫が食べるマキ貝などが減り、成虫になれる数が減ったからだと思います。

わたしの家では、田や畑で農薬を使うことがあるので使わないようにしたり、ごみが落ちていたら拾ったりしています。これからも、身近なことからホタルのすみかを守りつつ環境を良くしていく方法を考え、実行していきたいと思います。

みなさんも身の回りの生き物のために、できることからしていきませんか。

（6年・宮内菜摘）

毎月第2・4火曜日発行

これまでの掲載校の紙面を河北新報のホームページ（KOLNET）で見ることができます。